

【科目名】 臨床評価実習		【担当教員】 北上守俊、作業療法学専任教員 (メールアドレス) kitakami@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 月曜～金曜、8:30～18:00
【授業区分】 専門分野 (臨床実習)	【授業コード】 4-25-0985-0-1	
【開講時期】 3 年後期	【選択必修】 必修	
【単位数】 4 単位	【コマ数】 92 コマ	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 実習前に開講されている科目の単位を、すべて修得しておくこと。 実習の手引きを熟読しておくこと。 事前に実習施設に関わる情報を収集し、必要な資料等を準備しておくこと。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 実習施設へ行く前に、身だしなみを整えること。不適切な身だしなみと判断された学生については実習を認めないことがある。 臨床評価実習終了後は、学内にて症例発表を行うため、症例報告要約の準備を行うこと。 実習中に事故・事件その他の問題が起きた場合は、直ぐに実習先のスタッフ及び本学へ連絡すること。		
【講義概要】 (目的) 臨床評価実習は、学生毎に 1 施設の医療機関に赴き、臨床実習指導者のもと、症例に即した評価方法の選択、評価手技の実施を行い、評価をもとに抽出された問題点から障害象を把握する過程を学ぶことを目的としている。 (方法) 期間は 3 年次に 4 週間の日程とし、3 週間は医療機関を中心とした施設に赴き、臨床実習指導者のもとで実習を行う。1 週間は学内実習を行い、専任教員のもと症例検討等のセミナーを行う。		
【一般教育目標(GIO)】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業療法士として適切な評価を行い、障害象を把握する。 【行動目標(SBO)】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 適切な検査・測定を行う。 ・ 障害象に応じた問題点の把握を行う。 		
【教科書・リザーブドブック】 実習の手引き		
【参考書】 編集・市川和子、作業療法臨床実習とケーススタディ (第 2 版)、医学書院、2011 年、¥4,200 (税別)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 臨床評価実習のGPA、実習中の課題、事例報告の内容から総合的に評価を行う。 評価基準の詳細な内容は「実習の手引き」に記載する。		

平成 26～28 年度入学者用

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技(実習)	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		0	0	10	10	80	0	0	100点
評価指標	取り込む力・知識			5		20			25
	思考・推論・創造の力			5		20			25
	コラボレーションとリーダーシップ				5				5
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢					40			40
【授業日程と内容】									
回数	講義内容				授業の運営方法	学修課題(予習・復習)		時間(分)	
学外実習									
1・2	オリエンテーション(学内) 臨床評価実習での注意事項、課題確認				講義	配布資料を読んでおく。			
3～12	臨床評価実習(学内セミナー) 各領域の評価についてのおさらい				演習	配布資料を読んでおく。 評価学の内容を復習しておく。			
学外1週目	臨床評価実習 (医療施設、老人保健施設、小児施設等)				実習	行動記録、実習記録の作成 ケースノートの作成			
学外2週目	臨床評価実習 (医療施設、老人保健施設、小児施設等)				実習	行動記録、実習記録の作成 ケースノートの作成			
学外3週目	臨床評価実習 (医療施設、老人保健施設、小児施設等)				実習	行動記録、実習記録の作成 ケースノートの作成			
13～23	臨床評価実習(学内セミナー) 症例報告会				演習	症例報告会での発表・質疑 応答			

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。